研究者や登山家がその存在を知っていたくらいでした。彼らの名はナキウサギ。なわばりを主張する時や、つがい相手と連絡をとる時、頻繁に鳴き声を交わす習性を持っていることからその名前がついています。日本では北海道に、また北海道でも一部にしか生息していない貴重な動物です。そんな彼らにも狂った開発の波が襲いかかってきました。これまで彼らは比較的高い山にいるため、他の動物たちのように開発の波に呑まれることが少なかったといえます。しかし、彼らのうちでも低い場所にすみかを持つものが今、危機的状況に置かれています。士幌高原道路計画はそのもっともたるものといってもいいでしょう。

ナキウサギの持つ「幻」と「時間」

―士幌高原道路計画によって失われるもの―

小島　望

大雪山国立公園の中、彼らは長年ここでひっそりと暮らしてきました。幸か不幸か、つい最近まで、彼らはあまり人に知られておらず、一部の

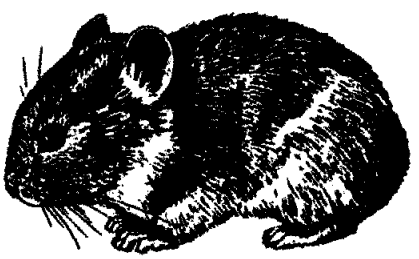
ナキウサギは「幻の動物」といわれてきました。山奥に住んでいて人目につかなかったこと、鳴き声は聞こえても、姿はなかなか見ることができないことなどが「幻」たる所以であることは容易に想像がつきます。しかし、実際は「幻」なんかではありません。彼らのすみかを知っていて、かつ会う努力さえ惜しまなければ必ず出会うことのできる動物です。「幻の動物」といわれてきた背景には別の理由がありそうです。

ナキウサギの観察が簡単にできる

とされ、頻繁に人が訪れる、とあるガレ場があります。私は、ナキウサギではなく、そこを訪れる人達を観察してみました。訪れる人のたいていは観光客です。カメラ片手に一目でも彼らと会いたいと、必死に彼らの姿を探します。しかし、大半は、二、三十分くらいで彼らを見ることもなく帰ってしまいます。私の経験からすれば、ナキウサギは、二、三時間じっと待ってさえいれば、気象条件が悪いか、よほど日ごろの心がけが悪いのでなければ、必ずといっていいほど出会うことのできる動物なのです。ゆっくりする時間がないからかもしれませんが、もう少し粘れば彼らと会うことができたかもしれないのに、と思うことしきりでした。私自身、彼らと初めて出会ったのが、霧雨の中で四時間、寒さにふるえながら待った末だったのですから……。こう考えると、ナキウサギが「幻の動物」と呼ばれてきたのは、本当の意味での「幻」ではなく、現代人のゆとりのなさ、忍耐力のなさが生みだした「幻」であるといえるのかもしれません。

野生動物は、欲しいものがあればすぐ手が届くような我々の社会とは全く違う世界の住人です。インスタント的にほとんどのことが済んでしまう現代社会とは明らかに一線を画しています。その中に、日常生活と同じ感覚で入っていき、彼らに会おうとする人たちがあまりにも多いのには困りものです。彼らの生活を見て、自然の神秘性、重要性を認識することは非常に大切なことですし、接することによって初めてわかることも少なくありません。最大の問題は、我々の社会の基準を彼らの世界の中に持ち込むことにあるのです。例えばそれは、タバコやゴミの投げ捨て、野生動物への餌付け、動植物の違法採集などの心ない行為にあらわれています。また、私たちの社会の利便性を、求めるべきではないこの異世界に追求していることも、大きな摩擦を引き起こしている原因となっています。大雪山国立公園内にトンネルを通そうという士幌高原道路計画は、彼らの世界に我々の利便性を持ち込もうとする行為そのものといえるでしょう。

私は、研究上、彼らのすみかにいることが多いのですが、ここで流れる「時間」は、我々が日常生活で感じている時間とは異質のものといえます。様々に変化する陽射し、風の流れ、緑の揺らめき……。遮るもののない時間のリズムの中、我々の持つ時間の観念がいかに味気ないものかを痛感させられます。我々の遠い祖先も、彼らの持つ、この「自然の時間」の中で生活していたことは想像に難くありません。もしかしたら、我々が彼らに接したいと思うのは、我々が遠い過去に失ってしまった「時間」を取り戻したいと願っているからなのかもしれません。

遥か昔から原始の自然が持つゆったりとした「時間」の流れに身を置くナキウサギ、かたや、利便性・時間短縮の追求のため我々の時間感覚でつくられようとする士幌高原道路。ナキウサギの住む然別湖一帯の自然を求めて訪れる我々は今、我々の持つ時間を彼らに押しつけるか、あるいは、彼らの持つ「時間」に我々が合わせるのかという選択に迫られています。もし、士幌高原道路をつくり、我々の時間を彼らに押しつけるとするなら、そこには、自然との『共生』という理念はなく、『強制』しかありません。一方的に我々の要求を彼らに押しつけるその姿は、過去、先住民族を排除し、征服者の文化・価値観を持つよう強制した、人の歴史と重なるように感じます。

士幌高原道路計画の利点の一つに、開通すると、十、二十分の短縮ができることが挙げられています。しかし、わずかな時間を得るとともに「自然の時間」は失われてしまいます。そのうえ、ナキウサギの一大生息地に道路を通すことによって、ナキウサギという動物が本当に「幻」となってしまう危険性もあります。失うものがあまりにも多い士幌高原道路計画。我々は、決してこの計画を許してはならないのです。